

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-10	高等学校	公民科	現代社会	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	現社323	現代社会 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- (1)平成21年3月改訂の高等学校学習指導要領「現代社会」における種目の性格と目標および内容とその取扱いの趣旨に従い、人間としての在り方生き方について考察する力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てることを目標として編修した。
- (2)内容(1)では、指導要領にある「生命、情報、環境」だけでなく、「資源・エネルギー問題」を取り上げた。現代社会に生きる生徒がよりよい社会を形成していくために、身に付けさせる必要な課題であると判断したからである。
- (3)内容(2)では、「倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会」などから現代社会についてさまざまな角度から理解させ、私たちはいかに生きているか、また、いかに生きるべきかを考察させる。
- また、学習指導要領の趣旨に鑑み、法教育と金融経済教育の記述にあたっては、特段の配慮を施した。すなわち、「刑事裁判と裁判員制度」では、司法制度の改革について述べ、さらに国民が裁判に主体的にかかわる意義を説いた。「金融政策」では、コール市場の説明やゼロ金利政策、量的緩和など、今日的政策についての記述に配慮した。
- (4)内容(3)では、内容(1)から(2)までのすべての学習をふまえ、都市と地方という2つの対立軸を手がかりに、現代社会をとらえ直した。持続可能な社会の形成に積極的に参加する意義や使命を理解させ、互いに異なった存在でありながらも、他者への敬意を失わず、相手を尊重する態度が養われるようにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1部 私たちの生きる社会 1 環境 2 資源・エネルギー 3 生命 4 情報	地球環境問題は、私たち一人ひとりにかかわることをとらえさせ、また持続可能な社会を構築する一員として、私たちが有意に必要な存在である視点を理解させる。さらに、私たちが、地球環境問題に積極的にかかわり、将来に向けて責任を有することを意識させる(第4号)。	5～26ページ
第2部 現代社会と人間としてのあり方・ 生き方 第1章 青年期と自己の形成 第1節 青年期の意義と自己実現 第2節 よく生きるということ 第3節 日本伝統や文化	「よく生きる」ことの大切さと健全な発達もつ大切さを、哲学的・思想的背景から理解させ、有意な公民になるための準備期間として、青年期を高校生として生きていることを自覚させる(第1号)。 職業は社会が必要とすることであるからこそ存在するのであり、職業生活をとおして自己実現をはかる青年期はキャリア	27～49ページ

	開発の重要な時期であることを理解させる（第2号）。 伝統や文化を重んじることで、自らのアイデンティティをもつことを理解させる。それこそ、はじめて他者との主体的な交流が生まれることを意識させる（第3号）。	
第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理 第1節 日本国憲法の成り立ち 第2節 基本的人権の保障 第3節 平和主義と日本の安全保障 第4節 現代政治と民主社会	人権の保障について「公共の福祉」の考え方からその調整が必要となることを理解させる。また、公職選挙法の改正により有権者となる高校生に、主権者としての資質を身につけさせる（第3号）。	50～95ページ
第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 現代経済のしくみ 第2節 経済の発展と国民生活	経済的な主体となることを自覚させ、公正なルールのもとでの経済活動を行うことを通して、経済の拡大を成り立たせることに気づかせる。また、国民の一人ひとりが自立した消費者として、安心して安全で豊かな消費生活を営むことができるよう、消費者の権利と責任について理解させる（第3号）。	96～139ページ
第4章 国際社会の動向と日本 第1節 現代の国際政治 第2節 現代の国際経済	国際社会における日本の立場と役割とを理解させ、国際社会の恒久的平和を確立させるために必要なことを理解させる（第5号）。	140～168ページ
第3部 ともに生きる社会をめざして	より良い社会を築いていくために、主体的に考え、社会に積極的にかかわり、社会の有意な形成者になる姿勢を養う（第3号）。	169～176ページ

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

希少性、シグナルとしての価格、情報の非対称性など、用語として盛り込んだものもあれば、盛り込まなくても、説明の中でそれとわかるように表現を工夫した。また、ひろく社会科学の基礎的素養を身につけられるよう記述した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-10	高等学校	公民科	現代社会	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	現社323	現代社会 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の目標に示された内容を考慮し、次のように編修した。

- (1) 人間の尊重と科学的な精神に基づくことを考え、現代に生きる人々へのあたたかいまなざしを感じられる記述とし、さらに事実を正確にとらえて価値判断を加えられる、冷静な記述の進め方に配慮する。
- (2) 広い視野に立つ姿勢を養うため、地域の違い、立場の違いを考慮し、時間的・空間的に普遍性を失わない内容を扱うこととする。
- (3) 現代の社会と人間についての理解を深めるため、生徒同士が話し合っ理解し、解決できる範囲、また生徒の保護者が自らの体験として理解できる内容から、思索を深めていけるよう配慮する。
- (4) 現代社会の基本的な問題について主体的に考察するため、いつでも、どこでも、だれでもが記述を読むことで内容を理解し、自らの力で考察し、その過程や成果をまとめたり、発表できる事象を扱う。
- (5) 公正な判断を導くため、特定の見解や一方的な意見だけに内容が偏らないよう、また、「幸福、正義、公正」が全体を貫く基準となるよう記述する。
- (6) 人間としての在り方、生き方について考察する力の基礎を養うため、現代社会に主体的にかかわっていく高校生の姿を肯定的にとらえ、「よく生きる」ことの大切さが理解できるよう記述する。また課題追究学習を設けて、主体的な学習内容ができるよう配慮する。
- (7) 良識ある公民として必要な能力と態度を育てるため、記述と構成を工夫して現代社会の特徴やしくみを理解・把握できるよう心がける。そして、主体的にかかわることを生徒が確認でき、課題を認識し、その解決策まで考案させることで、公民として必要な能力と態度を育てるようにする。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1部 私たちの生きる社会 1 環境 2 資源・エネルギー 3 生命 4 情報	(1) 私たちの生きる社会	5～26ページ	2 2 2 2
第2部 現代社会と人間としてのあり方・ 生き方 第1章 青年期と自己の形成 第1節 青年期の意義と自己実現 第2節 よく生きるということ 第3節 日本の伝統や文化	(2) 現代社会と人間としての在り 方生き方 ア 青年期と自己の形成	27～49 ページ	3 4 3

第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理	イ 現代の民主政治と政治参加の意義 ウ 個人の尊重と法の支配	50～95 ページ	
第1節 日本国憲法の成り立ち			3
第2節 基本的人権の保障			5
第3節 平和主義と日本の安全保障			2
第4節 現代政治と民主社会			7
第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方	エ 現代の経済社会と経済活動の在り方	96～139 ページ	
第1節 現代経済のしくみ			10
第2節 経済の発展と国民生活			9
第4章 国際社会の動向と日本	オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	140～168 ページ	
第1節 現代の国際政治			7
第2節 現代の国際経済			7
第3部 ともに生きる社会をめざして	(3) 共に生きる社会を目指して	169～176 ページ	2
		計	70